

あいち農産物生産流通レポート

平成18年12月号

情報サロン		
・いちご「ゆめのか」作付けが拡大	(園芸農産課) -----	1
地域トピックス		
・食と緑の基本計画に基づき 「奥三河“満菜(まんさい)”料理コンクール」を開催	(新城設楽農林水産事務所) -----	2
東日本情報		
・ - 農林水産祭「実りのフェスティバル」が開催されました -	(東京事務所) -----	3
西日本情報		
・ 農作業支援でゆとりある経営を実現し、若い担い手を確保	(園芸農産課) -----	5
フラワーページ		
・ 愛知の花を世界にPRするため、 愛知県はチェンマイ国際園芸博覧会へ出展しました	(園芸農産課) -----	7
青果		
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	-----	8
・ 名古屋・東京市場における青果物の12月の見通し	-----	9
花き		
・ 切花・鉢花の12月の見通し(県内市場)	-----	21
輸出入		
・ 主要農産物の輸出入実績(2006年9月)	-----	25
関連指数	-----	26

本書の内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所総務課物産情報グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

いちご「ゆめのか」の作付けが拡大

1 はじめに

いちごは、子供や女性を中心に消費者の人気が高い品目の一つです。近年は、全国的に主産県がオリジナル品種を育成し、産地の振興と販売戦略の強化を図っています。



いちご新品种「ゆめのか」

本県においてもオリジナル品種が要望される中、農業総合試験場は、平成16年度に新品种「ゆめのか」を育成しました。品種育成に当たっては、愛知県いちご生産組合連合会の生産者が育種サポーターとなり、選抜や試作に携わりました。

16年に試作が始まり、17年は県内で約6ha、平成18年では約13haと、順調に作付けが拡大しており、県内の主な産地は、JAひまわり、JA海部、JA蒲都市などです。

2 ゆめのかの特長

ゆめのかは、ジューシーですっきりした甘さがある、果実は大きくてよく揃う、果実が傷みにくく流通に適している、明るい紅色で光沢があるなどの特長があります。

こうした特長を最大限に生かして、本品種を活用した県内いちご産地の振興を図るため、関係機関で構成する普及促進会議を組織し、ゆめのかの振興方針を17年11月に策定しました。

3 ゆめのかの振興方針

(1)生産振興の目標

20年度には30haの作付けを目標に生産振興を図ります。当面、生食向けの販売を主体に進めながら、業務向けの適性についても評価を収集します。

(2)県外許諾の方針

県内産地の栽培技術や出荷体制等の基盤確立を優先するため、原則として品種登録されるまで(出願からおおむね3年)は他県に栽培の許諾をしないこととします。

(3)モデル産地を決めて重点的な支援

大規模に生産する産地をモデル産地に位置づけ、栽培技術面、販売面で重点的に支援を行い、これらの産地を核にして県内各産地へ栽培技術や販売の取り組みを波及させます。

(4)消費宣伝用キャッチフレーズ

食感や味の特徴を実需者・消費者に魅力的に伝える統一したキャッチフレーズを「ジューシーで、すっきりした甘さ」とし、これを用いて消費宣伝を積極的に進めます。

4 おわりに

ゆめのかについては、本県のオリジナル品種として、その名前のおり『みんなの「ゆめのか」なう』品種になるよう、生産者と関係機関が一体となって取り組みを進め、本県いちご産地の振興と消費の拡大に役立てていきます。

ゆめのかの作付状況の推移

農業改良普及課	産地名	平成17年作		平成18年作	
		戸数	作付面積	戸数	作付面積
尾張		1戸	10㎡	2戸	2a
一宮支所	稲沢	1戸	100株		
海部	立田	5戸	62a	15戸	190a
	八開	2戸	26a	9戸	157a
	佐屋	2戸	3a	2戸	6a
	市江			2戸	35a
				1戸	10a
知多	あいち知多	7戸	17a	6戸	53a
西三河	西三河連協	3戸	9a		
	岡崎	1戸	2a	7戸	23a
	幸田	2戸	6a	6戸	31a
安城	あいち中央	21戸	745株	2戸	3a
豊田加茂	あいち豊田	5戸	16a	6戸	37a
新城	愛知東	8戸	60a	9戸	65a
東三河	ひまわり	21戸	157a	50戸	364a
	蒲郡	9戸	224a	9戸	236a
	豊橋	1戸	10a	6戸	68a
渥美	愛知みなみ	1戸	10a	4戸	63a
合計		89戸	602a	136戸	1343a

(注1) 試作規模・作付面積の合計は面積が示されている産地のみ合計
(注2) 産地名の空欄は個選農家による生産状況

食と緑の基本計画に基づき 「奥三河“満菜(まんさい)”料理コンクール」を開催

「食と緑の基本計画 新城設楽地域推進プラン」における重点的な取り組みの一つとして、奥三河地域食材の地産地消の促進と消費拡大を掲げています。この推進を図るため、新城設楽農林水産事務所と愛知東農業協同組合との共催で、奥三河地域及び豊川下流域を対象に、「～地産地消～奥三河地域の食材を使った一品料理メニュー」をテーマとした料理コンクールを開催し、新城設楽地域及び豊川下流域の県民からのレシピの募集を7月1日から9月8日まで行いました。

募集

募集のチラシを家政科系等の学校12校、管内小中学校43校、産直・農家組織、JA女性部、みかわ市民生活協同組合員に配布するとともに、みかわ市民生協でも広報誌へ募集案内を掲載しました。総応募点数は200点で、その内訳は家政科系の高校生からの応募が一番多く96点(学校側の取り組みによるもの)、農村輝きネットから24点、管外等からの応募は80点でした。



試食展示会の様子

審査

審査は、豊橋調理師専門学校長を審査長とし、みかわ市民生活協同組合、農村輝きネット・しんしろ及び北設の会長、愛知東農業協同組合等の関係者の計9名で行いました。

1次審査 9月14日(木) 審査長によるレシピ審査で応募点数200点から、82点が選考されました。

2次審査 10月7日(土) 審査員の合議により、応募者の持参した作品70点(総菜類:34点、ご飯類:14点、菓子類:22点)から、金賞の愛知県知事賞を始め上位入賞作品10点(佳作を含む)が選考されました。審査は、奥三河らしさ 発想の斬新さ おいしさ 手軽さを重点に行われました。こりすぎず奥三河らしい「素朴さ」が入賞の決定ポイントとなりました。愛知県知事賞(金賞)には、設楽町の加藤和代さんの「設楽きのこのマリネ」が選ばれ、他の受賞作品も含め、いずれもアイデア多彩で奥三河の食材を上手に使ったおいしい料理ばかりで、審査員全員の評価の高い2次審査会となりました。



表彰式及び試食展示会

10月28日(土)、JAまつり会場において、農林水産事務所長及び農業協同組合長出席による表彰式と上位入賞作品の試食展示会を開催し、多くの来場者に好評を得ました。

今後の展開

今後、応募レシピの内容・アイデアは、産直施設等での活用をはじめとし、様々な形で活かし、地産地消のより一層の拡大を図っていくこととしています。

現在、受賞作品のレシピ・作品集について、新城設楽農林水産事務所のホームページ(<http://www.pref.aichi.jp/nourin-shinshiroshitara/>)で公開しています。

- 農林水産祭 実りのフェスティバル」が開催されました -

農林水産業や農林水産物、そして農山漁村について国民に理解を深めてもらうため、農林水産省及び(財)日本農林漁業振興会が毎年行っている農林水産祭の一つとして「実りのフェスティバル」が、今年も11月17日(金)と18日(土)の2日間、東京都江東区の東京国際展示場「東京ビッグサイト」で開催されました。

このフェスティバルは、勤労感謝の日に優秀な農林水産業者に「天皇杯」、「内閣総理大臣賞」などを授与する「農林水産祭式典」とともに、農林水産祭の大きな柱となっています。会場は2日間で4万7000人の入場者があり多くの人で賑わいました。

また開催初日には、秋篠宮殿下が来場され、会場内のブースをご覧になりながら、担当者の説明に熱心に耳を傾けておられました。

1 フェスティバルの概要

会場内は、農林水産業や食料問題などに関する理解を深めるための「農林水産業啓発展」と、各地域における農林水産技術や特産物を紹介する「地域農林水産展」にわかれ、農林水産省を始め47都道府県、農林水産関係団体など多数の出展がありました。

天皇杯コーナーでは、天皇杯を受賞された農林水産業者とその業績を紹介するパネルが展示されました。政府特別展示コーナーでは「知恵と個性で実現する活力ある農林水産業と美しい農山漁村」を、また、JAひろばでは「食農教育から始めよう」を、それぞれテーマとしてパネル等の展示が行われました。

2 本県の出展状況

本県の出展ブースは「しゃちほこ」や「あいち」の文字の入ったのれん・提灯などで装飾を行い、愛知をアピールしました。展示即売では産出額全国一の「キャベツ」「ふき」「おおば」「ぎんなん」「シクラメン」などをPRし、販売しました。

(1) 青果物の展示即売

試食を多く行うことにより、より本県産品の品質の良さを知ってもらうようにしました。

「キャベツ」は春系キャベツを生のままざく切りにして、ごま油と塩で味付けしたものを試食品として提供したところ、新鮮なキャベツとごま油の相性が良く好評でした。



[本県ブースの様子]

煮びたしにした「ふき」を試食としていただいたところ、ほとんどの人が「おいしい」と言って食べていました。

煮出して、レモンとクエン酸で味付けしたおおばジュースは、さっぱりした口当たりが好評で、ジュースの作り方のレシピと一緒に「おおば」を買い求めていくお客さんが多くみられました。

また、この時期には生のものを見ることがないハウス栽培の「スイートコーン」は来場者の興味を引き、準備した数量は早々に売り切れとなりました。

「トマト」「ミニトマト」「ミディトマト」は試食してもらおうと、その甘さと食味の良さから好評であり、売れ行きも上々でした。

「ぎんなん」は大粒の3Lサイズのをボールに入れて展示して、料理用のお玉でお客さんにすくってもらい販売したところ、品質の良さもあって、ゲーム感覚で楽しみながら購入していく姿が見られました。

果物では「次郎柿」の試食を行ったところ、甘さと食味の良さが好評でした。売れ行きも好調で、10kg入りの箱を数ケース買い求めていくお客さんもいました。

「愛宕なし」はその大きさからお買い得感があり、売れ行きも順調でした。

(2) 花きの展示即売

鉢花は様々な色のシクラメンを、切花はスプレーマム、ピンポンマムを展示し「花王国あいち」をPRしました。シクラメンは布でラッピングしバスケットに入れて販売したところ好評でしたし、切り花の販売も順調でした。



小出農林水産部長（中央法被姿）も愛知県ブースでPR

(3) 都道府県の技術 経営普及展について

本年は農業総合試験場が「不耕起V溝直播栽培」をパネル展示とディスプレイで紹介して、省力栽培が可能な新しい米作りの方法をPRしました。

< 青果物・花きの販売品目一覧 >

品目	産地	品目	産地
キャベツ	J A 豊橋	ふき	J A あいち知多
	J A 愛知みなみ	ぎんなん	J A 愛知西
トマト	J A ひまわり	次郎柿	J A 豊橋
ミニトマト	J A 豊橋	愛宕なし	J A 豊田
ミディトマト	J A 愛知みなみ	シクラメン	J A ひまわり
スイートコーン	J A 愛知みなみ	スプレーマム	J A 愛知みなみ
おおば	豊橋温室園芸農協	ピンポンマム	J A 愛知みなみ

農作業支援でゆとりある経営を実現し、若い担い手を確保

J A香川県は、若い担い手の確保育成を図るため、レタスのラッピングと選別、箱詰め作業を請け負う農作業支援を実施するとともに、併せて、契約取引を推進し、農家経営の安定を図っています。今回は、このJ A香川県における取り組みについて現地調査を行いましたので紹介します。

1 他に先駆けた農作業支援の取組

J A香川県では、既存の集出荷施設で自動ラッピング機等を導入し、平成8年にレタスの選別とラッピング、箱詰め作業の請け負いを始めました。

利用料はレタス1玉当たり15円（L19玉なら1箱285円、M22玉なら1箱330円）です。内訳は人件費8円、機械利用料2円、資材費（段ボール箱、ラップ代等）5円です。

12年に県内の43J Aが合併し、その後、支援作業を堆肥散布、肥料散布、畦立てマルチ張り、定植まで拡大しました。オペレーターとして、定年退職者、土建業者、水稲オペレーター、集出荷場パートの女性（管内の非農家出身）等の登録作業員のほか、J A職員も農作業に携わっています。このような支援は高齢者が利用すると思われませんが、若い農業者も経営規模拡大の一手段として積極的に活用しています。



レタスのラッピング作業

2 契約取引の推進

併せて契約取引を推進し、価格の安定を図っています。化学合成農薬の削減と有機質肥料の施用を重視し、高付加価値化を図り、京阪神の生協や量販店などと、1箱当たり2,500～2,800円（10kg）の一定価格で契約取引を行っています。

取り組み前は2～3割であった契約取引の割合は7割まで拡大しています。すべて市場外流通で対応しており、契約出荷の残量を市場出荷しています。

3 新規就農者の確保

平成11年度に研修生滞在施設を整備するとともに、全国農業会議所主催の新農業人フェア等にも積極的に参加して、新規就農者の確保に取り組んでいます。

新規就農希望者はJ Aの委託した法人において1年間の実践研修を受講し、研修終了後、希望者に対しては、J Aが臨時職員として採用して農家へ派遣（現地実習）する農

業インターン制度を実施しています。

農家実践研修とJAのインターン研修を経て、県外から7人が新規参入し、地元（兼業農家）からも5人が新規就農しています。



4 若い担い手の確保の鍵

この事業推進には、リーダー農家である
研修滞在施設

有限会社が大きな役割を果たしています。

この有限会社のK社長は、善通寺エコやさい部会の部会長を務めるとともに、グループ企業2社を含めてレタス25haを栽培しており、研修生や就業希望者を受け入れています。

K社長は、「若い担い手を確保するなら“ゆとりある経営”“儲かる農業”を実践することが大事だ。朝出勤して夕方には仕事を終え、週に1日は休みがあって、他産業並みの所得を得ることができる農業が実現できれば、若い担い手の確保はできる。」と語っていました。

5 発想の転換が重要

もう一つの大きな特徴は、「自己完結型から分業制へ」「家族経営から企業的経営へ」という発想の転換です。

研修生や就業希望者を活用して規模拡大するとともに、JAの農業機械のリースやレンタル制度を活用して資本装備を軽減し、所得確保を図っています。

農家は生産に専念でき、また、農作業支援に係るコストを含めた農業経営を踏まえ、雇用労力を取り入れて規模拡大を図っています。

意欲と能力のある若い担い手の育成を図り、就農5年目で5haに規模拡大した30代の担い手もいます。

6 おわりに

愛知県の農業は家族経営が中心で、農業機械についても一部、共同利用している産地はあるものの、多くは大規模生産者が個人所有しているのが現状です。

今後は、農協等が主体となって農業機械を導入（利用料等で運営）したり、農作業支援を積極的に進めることが産地を維持するための最も重要な手段であると考えられます。

また、契約取引にも積極的に取り組み、安定した経営を目指す必要があります。

近年、愛知県内では、担い手確保に関する新たな取組が始まっています。今後、産地を維持するために、このような取組が広がっていくことを期待します。

JA香川県善通寺エコやさい部会の概要

(1) 部会員数：35人 (2) 平均年齢：50歳 (3) 作付面積：延べ100ha

(4) 作付品目：レタス（40ha）、青ねぎ（22ha）、小松菜、ちんげんさい等の軟弱野菜

愛知の花を世界にPRするため、
愛知県はチェンマイ国際園芸博覧会へ出展しました

愛知県は、地域の農業団体（愛知県農業協同組合中央会、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き温室園芸組合連合会）と連携し、11月1日から10日までの10日間、タイ王国チェンマイ市で開催されたチェンマイ国際園芸博覧会「ロイヤルフローラーチャブルック 2006」へ出展しました。

出展内容は、本県を代表するキク、洋らん、盆栽等を効果的に使った花の装飾展示です。

装飾展示のテーマを「MATSURI（祭り）～花の舞～」とし、花を通して愛知の伝統文化の魅力を紹介し、世界との交流につなげようと、本県の伝統的な祭りをイメージした「山車（だし）」と三河が発祥の地とされる「手筒花火」をデザインとした展示を行いました。

使用した花材は、愛知県産の輪ギク、スプレーギク、グロリオサなど切花7,200本とシンビジウム、シクラメン等鉢花3,200鉢でした。山車のシンビジウムは、タイ王国で最も愛されている「黄色」の花を使いました。

神田知事が11月1日の開会式典には出席し、知事はタイのシリントン王女に愛知出展ブースを紹介するとともに、愛知県産のシンビジウムと盆栽を王女にプレゼントしました。

花の国際コンテストでは、愛知県農業総合試験場と愛知県花き温室園芸組合連合会の共同育成した輪ギク品種「白粋（はくすい）」が金賞第1席となりました。また、スプレーギク部門の金賞第1席も愛知県農業総合試験場の育成した「プリティララ」となり、両品種ともに審査員から高い評価を得ました。

この他にも県内の産地から出品したシンビジウム2点（豊田洋らん研究会出品）、鉢花（ポインセチア：蟹江町 戸谷忠徳氏出品）も金賞を獲得するなど、日本一の生産額を誇る愛知の花に対する国際的な知名度及び評価の向上を図ることができました。



愛知の花を使ったディスプレイ
「MATSURI（祭り）～花の舞～」



シリントン王女に愛知出展の紹介をする神田知事



金賞第1席を受賞した「白粋（はくすい）」

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

名 古 屋 市 中 央 卸 売 市 場 (品 目 : れ ん こ ん)

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円 / kg)	うち愛知産	前年の主な他産地 (上位 3 産地)
17年実績	432	289 (67%)	322	310	茨城 (32%)
18年見通し	430	-	320	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
4月、5月の日照不足と低温により生育は遅れ気味で、肥大不足が見られる。風水害に遭った地域もあり、全体的に不作傾向である。現在、全体的に野菜は安く、れんこんのみを高値で売れないため、価格は平年並みとなっている。 12月の入荷量は前年並み、価格も前年並みとなる見込み。			れんこんは、収穫の手間がかかるため、後継者が少なく、生産者も年々高齢化し、今後の収量増加は見込めない品目である。消費拡大のためには、量販店等でメニューとともに紹介する方法がよい。年末に向け、正月料理用の需要が増えることを期待する。		

東 京 都 中 央 卸 売 市 場 (品 目 : サ ニ ー レ タ ス)

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円 / kg)	うち愛知産	前年の主な他産地 (上位 3 産地)
17年実績	628	141 (22%)	340	408	茨城 (25%) 福岡 (21%)
18年見通し	700	-	250	-	
概 要 と 見 通 し			卸売市場から産地への要望・提言等		
茨城は終盤を迎え、本県産と福岡、静岡からの入荷が増加してくる。近年は千葉からの入荷も増加している。 昨年は低温の影響で入荷減で高値となったが、本年はここまで順調な入荷が続いている。 入荷量は前年を上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。			サニーレタスは業務需要のウェイトが高いため、高値には敏感であり、安定した価格が求められる。安定供給のため生産量の確保をお願いしたい。 また、鮮度がより求められる品目であるので、切り口の処理や低温輸送などで品質保持には十分に気をつけて欲しい。		

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
		全 国 平成17年 = 100				
		愛知県 平成17年 = 100				
全 国	18年 5月	100.4	107.1	105.1	100.6	102.4
	6月	100.4	105.6	112.8	100.2	101.1
	7月	100.1	100.8	101.3	100.7	101.4
	8月	100.8	119.1	111.0	101.1	104.1
	9月	100.8	112.6	111.0	101.3	103.4
愛 知 県	18年 5月	100.2	107.1	103.3	99.5	105.6
	6月	100.4	106.1	111.6	99.3	101.6
	7月	100.2	98.9	105.5	101.0	103.2
	8月	100.8	119.4	109.9	100.7	105.6
	9月	101.0	111.3	108.9	98.6	103.8

項目 年月		農業物価指数 (平成12年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
17年平均		99.7	91.9	104.7	90.7	109.3
18年	5月	100.7	92.4	109.8	92.6	108.0
	6月	101.0	92.8	113.7	106.5	109.6
	7月	93.7	87.7	103.4	94.5	110.3
	8月	102.8	92.0	109.1	105.6	107.6
	9月	104.9	91.2	119.2	93.3	109.0

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち	キ	は	ね	レ	ば	だ	に	た	き	ト	生	り
	米 (単一品種、 「コシカ 」以外)	ャ ベ ツ	く さ い	ね ぎ	タ ス	れ い し よ	い こ ん	ん じ ん	ま ね ぎ	ゅ う り	マ ト	し い た け	ん(ご ふ じ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年	5月	2,255	218	230	616	410	296	165	461	235	425	625	539
	6月	2,264	196	246	619	337	276	163	387	202	466	562	573
	7月	2,255	151	181	563	280	291	160	374	203	437	523	562
	8月	2,239	197	291	665	497	291	229	484	214	564	619	-
	9月	2,247	171	228	655	396	303	178	385	219	540	677	-
品目 単位 年月	み	グ	オ	い	バ	キ	緑(カ	き	バ	豚(牛(ま
	か ん	レ フ ル プ ツ	レ ン ジ	ち ご	ナ ナ	ウ フ イル ツ	せ 茶 茶)	 ネ シ ヨ ン	く	ラ	肉 ス)	肉 ス)	ぐる
	1 kg						100g	1 本			1kg		
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年	5月	-	350	361	129	243	634	617	186	158	322	240	489
	6月	-	379	404	-	244	767	617	171	168	312	226	491
	7月	-	316	406	-	243	699	599	166	157	295	234	498
	8月	-	335	409	-	253	724	312	156	175	299	238	497
	9月	1,084	310	403	-	255	755	599	154	181	301	229	522

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 402
平成18年12月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417